

歴史散歩



太郎生の動植物と自然

美杉地域の太郎生地区は、津市で最も西に位置し、奈良県境に接しています。東に連なる大洞山などの山々は、雨水を大阪湾と伊勢湾に分ける分水嶺となっていて、太郎生地区の中央を流れる名張川は、木津川、淀川を経て最後は大阪湾に流れ込みます。

水系の最上流部に当たる太郎生地区には、豊かな自然と多様な動植物が存在しています。その中でも珍しいのは、名張川のきれいな水を好むオオサンショウウオと、山間部に生息するカモシカです。いずれも国指定の特別天然記念物で、めったに出会うことはありません。また、渡り蝶として有名なアサギマダラも飛来します。秋のこの時期には、フジバカマの花畑の近くを飛んでいる姿が見られるかもしれません。

このほか、豊かな緑の中には巨樹・巨木の存在も知られています。国津神社にある県指定天然記念物のケヤキは、地面の近くで幹回りを測ると約13.5mもあり、樹齢1,000年といわれています。また、境内には石で造られた高さ3.3mで国指定重要文化財の十三重塔があります。地元で採れる大洞石と呼ばれる石材を使って、鎌倉時代に建てられたものです。

さらに、周囲を取り囲む山々にも特徴があります。中でも大洞山・尼ヶ岳・俱留尊山は、約1,440万年前の火砕流が堆積した層からなり、これが浸食されてできたと考えられ、山頂から麓までの傾斜が滑らかな形になっています。

また、俱留尊山の麓にある池の平高原には湿原が残っています。ここには泥炭などの層が厚く堆積していて、オニナルコスゲなどの寒冷地性の湿地植物が見られます。この湿原の付近に

は東海自然歩道が通っていて、歩道を西に進んで峠を越えると、ススキで有名な曾爾高原まで足を延ばすこともできます。

豊かな自然に囲まれた太郎生地区には、動物や樹木だけでなく、地形や地質・鉱物も特徴的なものが見られます。周囲を囲む山々にいだかれながら、気候のよい秋の一日を過ごしてみるのはいかがでしょうか。



国津神社のケヤキ



十三重塔

